

東北大学機械系

# 同窓会ニュース

第 19 号



叙勲	16
機械系リニョーアル	11
最近の機械系の国際化推進施策	9
学部3年生の近郊・学外見学報告	8
海外留学体験記(米田カネギ・メロン大学)	8
海外留学体験記	7
機械系低層実験棟の改築	6
東北大学市民講座「東北大学機械系若手研究者の挑戦」	5
機械系広報推進室の活動	4
機械系オープンフェスティバル開催報告	3
産学連携推進室だより	2
同期会報告	1
総会予告/事務局便り/編集後記	1

## 東北大学機械系同窓会

〒980-8579  
仙台市青葉区荒巻字青葉 6-6-01  
東北大学工学部機械知能・航空工学科内  
電話：(022) 795-6926  
FAX：(022) 795-6926  
E-Mail：dousou@mech.tohoku.ac.jp  
ホームページ：  
<http://www.mech.tohoku.ac.jp/dousou/>  
郵便振替口座 番号 02270-8-11176  
名称 東北大学機械系同窓会  
印刷 笹氣出版印刷株式会社

### 会費納入のお願い

同窓会は、会員皆様が入り込まれる会費によって運営されています。同封の振込用紙を使って会費納入をお願い致します。

◎年会費 2,000 円

# 神山新一名誉教授が 瑞宝中綬章を受章

流体科学研究所 教授 西山 秀哉

機械系同窓会の皆様には、神山新一名誉教授が、平成二十五年十一月三日付で瑞宝中綬章を受章されましたことをご報告し、会員一同心からお祝い申し上げます。

神山新一先生は、昭和十年栃木県栃木市のお生まれで、昭和三十二年本学工学部機械工学科を卒業後、同大学院工学研究所に進学し、本学高速力学研究所初代所長の沼知福三郎先生の指導の下に昭和三十七年に博士課程を修了され、工学博士の学位を授与されました。同年四月高速力学研究所講師、同助教を経て、昭和五十年十月本学最初の時限部門で高速電磁液流研究部門の教授に昇任されました。昭和五十六年から五十七年まで文部省在外研究員として、ケンブリッジ大学とミシガン大学に滞在されております。

昭和六十三年四月には、同研究所所長を務められ、キャピテーション中心の研究から新たな流体科学研究へと改組転換を図り、平成元年五月には、流体科学研究所初代所長に就任され、流体科学研究を強力に推進されました。その後、平成六年四月に評議員、平成七年四月には所長に再任され、平成十年に大部門への改組をされました。このように先生のご指導の下に、日本で唯一の流体科学研究所の確固たる地位が確立されたと言つて過言ではありません。平成十年三月には、

東北大学を定年退官され、同年四月に東北大学名誉教授になりました。平成十一年四月には、新設の秋田県立大学システム科学技術学部初代学部長に就任され、研究科の設置等、同大学システム科学技術学部の基礎を構築し、平成十七年三月に停年退官されました。

神山先生のご研究は、任意形状のベンド内流れとキャピテーションに始まり、次第に研究対象を電磁流体へ転じ、MHD軸受、MHD発電機内や電磁誘導ポンプ内の流れ、平行平板間の導電性流体の流れ、さらには液体金属流や特殊液体のキャピテーションおよび二相流動、キャピテーション損傷の磁場効果へと展開されました。

特筆すべきこととして、昭和四十九年ぐらいから国内では最初に磁性流体の流れの研究に着手し、昭和六十年には、磁性流体の円管内流れに関する研究に関して日本機械学会論文賞を受賞されました。その後、次第に研究領域を拡大し、その研究内容は磁場下での磁性流体の凝集現象と管内流動特性に及ぼす影響、磁性流体気液二相流を活用した世界で最初のエネルギー変換システムの提案、磁性流体ダンパおよびアクチュエータの開発にまで広く展開されました。まさに国内外で磁性流体研究を拠点化され、昭和六十一年と平成二十二年には議長とし



て、磁性流体国際会議を開催されました。

学会関係では、日本機械学会副会長や日本混相流学会会長、磁性流体研究連絡会初代委員長等として、学会の運営や機能性流体・知能流体の啓蒙活動を活発にされ、多大なる貢献をされました。

政府関係では、文部省学術審議会、日本学術会議、日本学術振興会、大学評価・学位授与機構で数々の要職を歴任され、社会活動でも日本工学会アカデミー副会長、東北インテリジェント・コスモス学術会議、東北工学会教育協会等では、極めて重要な役割を果たされました。

以上のように、神山新一先生は、新規な流体工学の啓蒙、流体科学研究所の発展ならびに教育・科学技術活動に尽くされ、その功績は極めて顕著であり、本会員にとりまして誠に喜ばしいことであります。



# 機械系 ユニニユール

機械系長 教授  
三浦 英生

東日本大震災から約三年が経過し、青葉山キャンパスの建物の復旧、復興が完了予定の歳を迎えました。本機械系におきましても、旧低層実験棟は全て解体され、北側のバレーコート跡地に新実験棟が竣工を迎えようとしております。現在はまだ工事中ではありますが、今秋には新たなキャンパス風景に衣替えを予定しております。お時間がございましたら、新キャンパスにもお越し頂けましたら幸いです。

建物工事と並行しまして、教育カリキュラムの刷新も学部、研究科一体となり進めております。その骨子は、学部から修士課程までの六年一貫教育を通して、社会で主として技術者として活躍できる、高度技術と知識、及び自然や世界の人々と責任と愛情を持つて接する事の出来る教養を、基礎、応用教育と研究指導を通して培い、醸成することにあります。一方修士から博士までの五年一貫で社会を情熱と責任を持って牽引する博士教育プログラムの充実も同時に進めております。

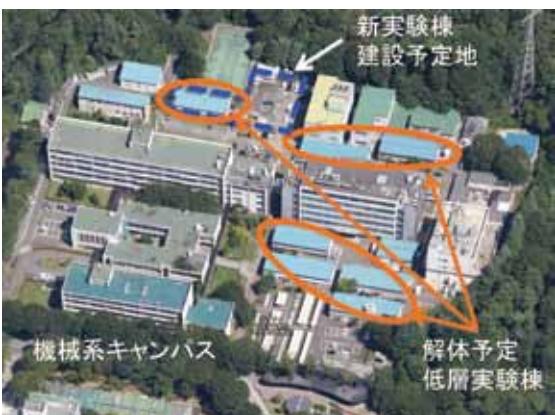
研究におきます学際、先端融合という価値観を共有し、その実現に向けて進ん

ていきますためには、若者達に多様な価値観や学術的視点をも併せ持たせ、他分野の研究者や技術者あるいは一般の方々との交流、折衝交渉能力を育成強化させることも不可欠です。そのためには、目の前の研究に役立つ知識や技術に留まらず、社会情勢、社会科学なども含めた多様な情報に積極的に触れる努力、年齢や性別、国籍などを越えた幅広い人々との接触機会を創ることへの挑戦などが必要で、大学、教員レベルでも様々な仕組みや環境整備を進めていく所存ですが、同窓会の皆様にもご支援を頂戴できればと考えております。

グローバル化という視点では、国籍を問わない英語教育システムの開発を目指しております。平成二三年度から始めました国際機械工学コース(通称MACU)を拡大発展させ、外国籍の留学生に留まらず、英語で学びたい日本人学生も取り込んだワールドキャンパスの実現です。日本人を海外に送り出し、留学生を受け入れて英語教育を日本語教育と並行して行うという一方通行の教育ではなく、完全双方向のボーダレス教育を機械系キャンパス内で実現したいと考えています。

以上述べて参りました、多様な価値観、知識や技術を有し、グローバルな視点で地球と人類の共存共栄に資する研究・教育環境を強化していきますためには、現任教職員と学生、同窓会、機械系OB、OG間の世界規模での有機的なネットワークの構築による交流が不可欠と考えております。このため、従来の研究における産官学連携に加え、教育に関する産官学連携の実現を目指して参ります。従いまして、同窓会組織も改めまして充実

させたいと考えております。これまでの約百年の歴史の中で、卒業・修了生は約一万二千人に達しているそうです。これに機械系で教鞭をとられました先生方、研究者として滞在された皆様等を加えますとさらに約二千人以上のヒューマンネットワークが構築できます。皆様の英知とこれまでの様々なご経験が全て貴重な財産であり、それらを有効に共有する場を創成することで大学の役割に新たな魅力が加わるものと確信しております。また改めまして同窓会を通し様々な願いをさせて頂く予定ですので、その際には是非皆様のご理解とご助言・ご支援・ご協力を頂戴頂きますことを、切にお願ひ申し上げます。最後に、皆様とご家族様のご健勝とご活躍を祈念させて頂きまして、ご挨拶とさせて頂きます。



## 最近の機械系の国際化推進施策

リーディングプログラム推進機構副長

升谷 五郎

機械系では、諸先輩が多く海外大学と学術交流協定を結び、国際化を進めてきました。2000年代に入って、大学国際化の流れを加速するための施策が提唱され、機械系はその実現に積極的に取り組んできました。これらの中で筆者が関わった4つのプログラムを通じて、大学グローバル化に向けた機械系の動きを紹介します。

### ダブルディグリー・プログラム

ダブルディグリー（以下、DD）、一人の学生が2つの大学で正規学生として所定の課程を修めた時に、両大学からそれぞれ学位を授与される仕組みで、域内学生の流動性向上を目指すEU諸国で多く採用されています。本学では2006年度に全学的な取り組みとして、フランスのEcole Centraleグループ5校とINSA de Lyon及び中国の清華大学と、本学の理工系研究科の間で修士レベルのDDプログラムが始まりました（2008年度からはスウェーデン王立工科大学も）。これらの大学とは、かねてから機械系教員が交流を深めていたこともあり、機械系も本プログラム積極的に参画し、各大学から毎年数名の学生を受入れています。一方、派遣が少数にとどまっているのはやや残念です。

### 国際機械航空工学コース開設

2008年に「留学生30万人計画」に基づく大学国際化の拠点校（いわゆるG30）募集があり、東北大学も応募しまし

た。応募には、英語のみで学位取得が可能なコース（以下、英語コース）を学部と大学院で各1つ以上新設が要求されました。研究が中心の大学院では工学研究科等に前例がありました。教育中心の学部英語コースは学内に1つもありませんでした。機械系では教授相談会において学部英語コースの開設について機械系の将来を見据えた議論を行い、和田仁系長（当時）のイニシアチブのもと、大学院前期及び後期コースと合わせて開設を決定しました。これが国際機械航空工学コース（IMAC/J/G、定員各10名）です。入試には機械系の教員が直接受験生のいる国に赴き、筆答及び面接試験を実施しています。2010年10月に大学院コース、翌年10月に学部コースの第1期生が入学しました。両コース開設に当っては、講義はもとより各種の教務事務手続きも英語化が求められ、機械系教職員の絶大な協力によりプログラムが進められています。大学院コースでは既に修了者が出ており、学部コースも順調に行けば来年3月に第1期生が卒業する予定です。

### 若手研究者等海外派遣プログラムによる教員・学生派遣

学術振興会が2009年度に募集した若手研究者等海外派遣プログラムに、機械系が応募した3年間で系所属の助教全員が2ヶ月以上の海外経験を有するようにし、学生に対し世界水準の研究指導をすることを目指すプログラムが採択されました。学生の短期派遣も同時に行いました。プログラムが軌道に乗った2011年3月に東日本大震災が発生し、研究室の復旧が優先となって派遣を延期せざるを得ないケースも出ました。

しかし、その後も各研究室の協力を得て時期をずらして派遣することにより、3年間で教員24名を含む延べ99名を派遣できました。派遣者の報告は機械系ホームページをご覧ください。

### ロボティクスのサマースクール開設

2010年度に本学と北欧の工科大学との交流強化のため、サマープログラムへの学生の派遣・受入れを促進することになり、工学研究科にサマープログラム開設の要請がありました。これを、吉田和哉教授をまとめ役とする機械系のロボティクスの教員グループが引き受け、Tohoku University Engineering Summer Program (TESP) 2010-Robotics が開設されました。受入対象校を拡げ参加者は20名を越えました。プログラムは2週間で、講義や研究室見学に加え、ロボットを作成する実習も行われました。日本人学生にとっても外国人学生と接する良い機会となりました。このプログラムは、関係者の多大な尽力により、大震災の年も含めて継続して実施されています。

## 学部3年生の近郊・学外見学報告

情報科学研究科 准教授

鏡 慎吾

機械系4コースでは、学部3年生の正課としまして、学外の工場等の見学を学科創設以来実施しております。機械工学に関する大学での講義や実験・実習が実社会においてどのように生かされているか、企業における生産活動や研究開発の場の見学を通じて学ぶことを目的としております。また、学生達にとっては将来

の進路を考える貴重な機会となることも期待しています。

従来は、県内または隣県の企業等を見学させて頂く「近郊見学」を9月頃に、関東方面や、年度・コースによつては中部方面も含めて数社を見学させて頂く「学外見学」を3月頃にそれぞれ実施しておりましたが、近年は両者を一体化した「近郊・学外見学」として9月頃に実施するのが恒例となっております。

平成25年度は、航空宇宙コース39名が9月3日～6日において、機械システムデザインコース55名、ナノメカニクスコース46名、バイオロボットシステムコース43名が9月17日～20日において、IHI、会津オリンパス、アルバック、

いすゞ自動車、出光興産、宇宙航空研究開発機構、海洋研究開発機構、ケーヒン、JFEスチール、新日鐵住金、仙台ニコン、テルモ、東芝、日産自動車、日本航空、日立製作所、富士重工業、富士電機、ミツトヨの各社様、各機関様のご理解とご協力を頂き、見学させて頂きました。各コースを2名の教員が引率し、筆者もナノメカニクスコースの引率を務めました。

仙台から関東地区までは大型バスでの移動となりますが、長旅で疲れた顔を見せていた学生達が、見学先の大規模な設備や先進的な研究内容を目の当たりにして、みるみる目を輝かせて興奮した表情に変わっていくのが印象的でした。OB・OGの先輩方との懇談の機会を設けて頂く場合も多く、強く刺激を受けておりました。大学では学ぶことのできない多くのことを得ることができたものと思います。

見学実施前の学部3年生は、その多くが大学院への進学を希望していることもあり、企業活動についてアンテナを張っていない者がほとんどであったかと思いますが、機械工学の実践の場を垣間見るとともに、ロールモデルである諸先輩方の活躍する姿に触れ、その意識は大きく変わったように見えます。

ご対応くださいました皆様には、ご多忙のところ、事前の準備や当日のご対応に多大な時間を割いて頂きましたこと、また仔細にわたり数々のご配慮を賜りましたこと、厚く御礼申し上げます。

今後このような見学の機会を通じて、実社会における工学実践に触れる場を学生達に提供して参ります。同窓会員

の皆様をはじめ関係者の皆様には、ご多忙の中とは存じますが、変わらぬご理解とご協力を賜りたくよろしくお願ひ申し上げます。毎年度の初頭には、引率担当教員が見学行程の計画を開始します。新たな見学受け入れ先の開拓も積極的に行って参りたいと考えておりますので、受け入れをご検討頂ける場合は、ぜひお心当たりの教職員までご一報頂けますと幸いです。

## 海外留学体験記 (米国歌カーネギーメロン大学)

機械システムデザイン工学専攻 助教  
辻田 哲平

工学研究科「若手研究者海外派遣による最先端科学・工学グローバル・キャリアアディベロップメント」のご支援のもと、2012年10月末から2ヶ月間、米国歌カーネギーメロン大学(CMU)ロボティクス研究所を訪問する機会を頂戴いたしました。また、2013年4月より二年間の予定で、日本学術振興会海外特別研究員として、引き続き同研究所にて在外研究の機会を頂戴しております。同大学はペンシルバニア州ピッツバーグに位置し、かつて鉄鋼の町として栄えた町です。鉄鋼王アンドリュース・カーネギーが設立したカーネギー技術学校と銀行王アンドリュース・メロンが設立したメロン工業研究所が合併し誕生したのが、CMUです。ロボティクス研究所は1979年に設立され、ロボット工学を主とした研究所として世界最大級の研究所で、教員は70名強在籍しております。



ピッツバーグは、鉄鋼の町にちなんだ名前をもつアメリカンフットボールチーム Pittsburgh Steelers の熱狂的ファンが多くおり鉄鋼の町の名残をとどめておりますが、近年は製鉄業が廃れハイテク産業や金融などの産業へ移行し成功を取っています。教育にも力を入れており、市近郊には多数の大学が存在し、学生が町中にあふれて活気に満ちております。また、ピッツバーグ大学医療センターを中核とした医療産業集積が行われており、世界中から医師、企業、患者が集まってきている点も特徴的です。このような強固な産業基盤に支えられ、世界中から訪れる研究者・学生を温かく迎え入れてくれているように思います。この恵まれた環境のなか、CMUでは最先端の研究が行われており、私は磁気浮上式の力覚提示装置などで著名な Ralph Hollis 教授にお世話になっております。東北大学で開発を進めていたバーチャルリアリティ技術を利用した手術シミュレータをより発展させるために、Hollis 先生のご意見を頂戴しながら、磁場に反応する機能的な流体を活用した力覚提示装置やシミュレーションソフトウェアの開発に従事しております。

米国の研究を経験し、学生・教員問わず皆よく働いている点には驚きました。派遣前は、欧米の研究者はプライベートの時間を大切にしている点には驚かなくていい印象を抱いていましたが、実際に一緒に仕事をしてみるとその印象は間違いであることに気づかされました。例えば、Hollis 先生は、ご自宅の地下に工場を持っておられ、帰宅された後もロボットをご自身で製作していらっしやい

ます。日本の制度では既に定年を過ぎたお歳でいらっしやいますが、実際に物を作ることを大切にされ日夜研究に没頭されておられます。帰国後もこの姿勢を見習い、ロボット研究者として物作りを大切にし、研究に励みたいと思います。

最後になりましたが、このような大変貴重な機会を快く与えて下さいました内山勝教授と受け入れ先の Ralph Hollis 教授に、心より御礼申し上げます。また、私の不在中に大学の業務をご支援いただいております姜欣助教、安孫子聡子助教および機械・知能系事務職員の皆様にもこの場をお借りして御礼申し上げます。



カーネギーメロン大学  
(左下部はアンドリュー・カーネギーの出身地スコットランドに由来するパグパイプ楽団)

## 海外留学体験記

機知・航空平成23年卒  
遠田 翔平

2013年12月より約1カ月半、「組織的若手研究者等海外派遣プログラム」

より在外研究の機会を頂戴しドイツのデュッセルドルフの理論物理学研究所 (Institut für theoretik physik) 内の Jürgen Horbach 教授の研究室に滞在しました。Horbach 教授は当時の私の研究テーマであった Strong ガラス形性物質について多くの論文を発表しており、大規模な計算機実験やさまざまな理論的アプローチを行っておりました。同じ研究領域でも最先端の研究を行っていらっしやる代表的な研究者の一人であったため、訪問前は非常に緊張しておりました。訪問後1週間は、週1度、教授の居室での議論を実施していましたが、1週間では Horbach 教授の人物、同じ居室で過ごしていた学生、研究員の温かい歓迎もあり Horbach 教授とは多いときは週3回1日おきに議論を行い、他の学生とも研究や物理について議論、雑談を楽しむことができ、充実した時間を過ごすことができました。

今回、縁あって初めて単身でのヨーロッパ渡航となりましたが、道中様々なトラブルに見舞われました。(たくさんありますので、今回は紙面の都合上割愛させていただきます。) 日本を発つてから Frankfurt まで13時間、その後空港近くのホテルで一泊し、ICE や Dusseldorf まで向かい、そこから Tram (路面電車) で大学まで向かいましたが、全てが初めての連続で右も左も分からず、かなりの苦労を伴って研究所までたどり着きました。しかし、到着してから最初の週末にはすでに慣れてしまい、市内の Tram を駆使して Dusseldorf 内の様々な場所を巡りました。ドイツの交通システムは日本と異なり、Tram、地下鉄、一部のバ

## 機械系低層実験棟の改築

バイオロポティクス専攻 教授

田中 秀治

スは同じ切符で乗ることができ、また明確な金額の区別がありません。ドイツでは英語の教育が進んでいるためか、市内では基本的に話しかける相手は皆さん流暢な英語で返答して下さるため、分からないことがあれば都度道行く人などに質問してドイツでの生活に順応していきました。

また、Dusseldorfでの生活が始まったからは、しばしば教授や研究室の学生たちと夜の街に食事に出かけ、交友を深めました。Horbach教授のグループにはドイツはもちろんトルコ、インド、フランス等様々な国籍の学生、研究者が集まっており、彼らの部屋で各国の食事をご馳走していただき、各国の文化についても触れることができました。訪問当初三回ほど、どうしても日本食が食べたくなって日本人街でご飯を買って食べたりもしましたが、生活に慣れてくると特にその様な想いも薄れ外国生活を楽しむことができました。これまで韓国、ベトナムと海外滞在した経験を活かすことができましたが、

最後となりましたが、今回の貴重な機会を頂戴いたしました組織的若手担当者海外派遣プログラムご担当の吉田和哉教授、私の滞在を受け入れてくださったDusseldorf 大学 Institut für theoretische PhysikのJürgen Horbach 教授、そして多数の研究及び海外渡航の機会を与えてくださった徳山道夫名誉教授に心より御礼申し上げます。

まだ寒い日が続きますが、機械系キャンパスにある低層実験棟（研究室によって呼び名はまちまちだったかもしれない）と聞くと、冬季、かじかんだ手を温めながら実験したことが想い出される方も少なくないと思います。私も、低層実験棟Aに設置してあった卓上研磨盤で実験したことを想い出します。それもそのはず、低層実験棟は、基本的に鉄骨にボードを貼り付けただけの構造で、隙間風も多く、断熱性に乏しいものでした。一方、比較的最近の卒業生の中には、低層実験棟で冬季も夏季も快適な実験をした想い出をお持ちの方もおられるかもしれせん。たとえば、私の研究室が利用している部分においては、2006年、精密な実験装置を設置するために、天井と内壁を設置し、外壁との間に断熱材を入れるなどの改修工事を行いました。世代や所属研究室によって想い出は様々だと思いますが、とにかく低層実験棟には大変お世話になりました。

このように皆様それぞれに想い出深い低層実験棟に、今年度末をもってお別れすることになります。低層実験棟は昭和40年に竣工し、半世紀弱の歳月を経て、酷く老朽化が進んでいます。低層実験棟は、3年前の東日本大震災もくぐり抜けましたが、壁には無数の亀裂が走り、耐震性という意味でも使用限界を迎えていますので、今年度末で取り壊し、現在、2号館の背後に建設中の実験棟に役割を

移します。新しい実験棟は、総面積にして約1200㎡で、低層実験棟7棟の総面積総約2000㎡の6割の広さになりますが、これまでに低層実験棟が担ってきた工場をはじめとする研究教育機能を高度に集約します。

低層実験棟を撤去した後の機械系キャンパスの利用法についても、議論を開始しました。利便性、安全性、景観などの観点からキャンパスプランを策定し、順次、実行していきたいと考えています。低層実験棟の改築工事と並行して、狭隘化した事務室の改築工事も進行しております。移転後の現事務室跡は学生や来学者のためのスペースとして整備される予定です。さらに、既存建物の1階ロビーに研究成果等を提示するスペースを設置することも検討しており、総合的に機械系キャンパスの魅力を高めていきたいと考えています。卒業生の皆様におかれまし



お世話になった低層実験棟  
「お疲れ様でした。」



寒いはずの低層実験棟内部の作り

では、機会がございましたら、是非、機械系キャンパスにお立ち寄りください。

## 東北大学市民講座

### 「―東北大学機械系若手研究者の挑戦―」

ナノメカニクス専攻 教授

足立 幸志

平成25年8月25日(日)に、せんだいメディアテーク1階オープンスクエアにて、「未来をツクル―東北大学機械系若手研究者の挑戦―」と題した東北大学市民講座を開催しました。この市民講座は、「内閣府 最先端・次世代研究開発支援プログラム」における国民との科学・技術対話の一環として、本プログラムに採択いただいている機械系5名の研究者で企画したものであり、本プログラムにおいて取り組んでいる研究をわかりやすく伝えることにより、中高生の皆さんに科学技術に対する夢と東北大学機械系に対する興味を持っていただくことを最大の目標としました。機械系長、三浦英生教授の魅力溢れる東北大学機械系の紹介に続き、触覚刺激を用いた運動サポートと触覚のメカネを創るには、(昆陽雅司 情報科学研究科 准教授)、匠の手をつくる、新たな触覚・触感センサの開発(田中真美 工学研究科 教授)、微生物シミュレーションで切り拓く人と地球の豊かな未来(石川拓司 バイオロボティクス専攻 教授)、もし摩擦をゼロにできたらく人と地球に優しい機械をツクル(足立幸志 ナノメカニクス専攻 教授)、シミュレーションでデザインする地球にやさしい次世代自動車(久保百司 エネルギー安全科学国際研究センター 教

授)と題した、高齢化社会に向け心身の健康と豊かさを享受できる社会や地球温暖化を克服し持続的発展が可能な未来社会をツクルための各研究者の挑戦について紹介しました。来場された中高生の中から、近い将来、東北大学機械系において夢を共有し一緒に研究をする仲間となる学生が生まれることを期待して…本市民講座の詳細は、<http://www.pls.mech.tohoku.ac.jp/next2013/index.html>にて、当日の講演の様子はインターネットテレビCATV [http://catv.net-tv/movie/tu\\_2013\\_summer/001\\_01.html](http://catv.net-tv/movie/tu_2013_summer/001_01.html)にて公開されておりますので、是非、ご覧いただき忌憚のないご意見を頂戴できれば幸いです。



育 最先端・次世代研究開発支援プログラムは、将来、世界をリードすることが期待される潜在的可能性を持った研究者に対する研究支援制度であり、「新成長戦略(基本方針) (2009年12月30日閣議決定)において掲げられた政策的・社会的意義が特に高い先進的研究開発を支援することにより、中長期的な我が国の科学・技術の発

展を図るとともに我が国の持続的な成長と政策的・社会的課題の解決に貢献することを目的として平成22―25年度に実施されております。  
(<http://www.jsps.go.jp/j/iseedal/gaiyou.html>)

## 機械系広報推進室の活動

機械系広報推進室

機械システムデザイン工学専攻 教授

琵琶 哲志

機械系広報推進室 担当

渡邊 琴美

機械系広報推進室では、主に高校生に向けた広報活動を積極的に行っております。多くの小・中・高校生に対して、東北大学機械系の魅力を伝えるために、パンフレットの制作やウェブサイトを(東北大学「機械系」で検索)での情報発信、出前授業や学校見学などのアレンジ等の広報活動を行っています。中でも、今年度2日間でのべ4000人超が参加した機械系のオープンキャンパスにおいては、毎年企画・運営を広報推進室が担当しており、参加者にとって進路選択のための有意義な機会になるよう、情報提供やサポートに力を入れています。また3月末には、学部生の研究室配属の見学に合わせて、学外向けの研究室公開も2010年から行っており、毎年60名以上の参加者のうち、2割は編入学や大学院入学しています。なお、今年度は、高校生向けのパンフレット・ウェブサイトを新たに作成し、在学生・卒業生のインタビュアーなど、人にスポットをあてたページを増やし、高校生により具体的な大学生活をイメージしてもらえよう構成しました。

今後、教員・在学生だけでなく、社会で活躍する卒業生などを紹介していく予定です。少子化の進む現代においては、意欲を持ち、より優れた理系人材を育てていくため、大学の魅力を伝える広報活動が重要になってきています。

機械系同窓生の皆様方には、引き続きご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



機械知能・航空工学科パンフレット



機械知能・航空工学科ウェブサイト

## 機械系オープンフェスティバル開催報告

機械系同窓会 庶務幹事  
技術社会システム専攻 教授  
中田 俊彦

初めての企画である機械系オープンフェスティバル（機械系学生と先輩との交流会）を、年末の十二月七日（土）に開催しました。これは、社会で活躍する

先輩と、現役学生との交流の場の提供を目的とした交流型のイベントで、機械系同窓会と機械系産学連携推進室が共同で開催しました。会場は、青葉山キャンパス内の工学部中央棟です。当日は、昼の開場と共に、二百二十名の在校生と、百八十名の卒業生（九十九社）を含む総勢四百二十名の来場者で賑わいました。前半の三時間は、企業毎のブース形式の交流会、後半二時間は立食形式の懇談会です。学生らは社会で活躍する上での心構えや、企業毎の特徴や体験などを、先輩方から聞き出して交流していました。いずれ社会に出ていく上での自分の進路を見定める、貴重な機会を提供できたものと思います。ご協力を賜りました卒業生の皆様に厚く御礼申し上げます。次年度以降も引き続き、本企画を開催して参りますのでご期待ください。



## 産学連携推進室だより

機械系産学連携推進室 室長  
技術社会システム専攻 教授  
中田 俊彦

平成12年度に発足した機械系産学連携推進室は、企業と大学間の共同研究等の連携機会の情報提供と、学生の就職支援

を目的にしています。前者は、会員制の機械系産学懇談会を主宰して、企業向けの研究室見学会を年四回開催するとともに、研究室紹介誌OPENを毎年配布して、複雑になった機械系の研究室組織をわかりやすくお伝えしています。

就職支援は、大学推薦を依頼する求人企業に対して、学内で企業別推薦枠を決定し、学生の志望に基づいて推薦しています。今年度から、学生と企業との事前のジョブマッチング成立を前提とした大学推薦制度A方式と、従来の大学推薦制度B方式に分けて、運用を始めました。A方式は、三月上旬に両者の志望をとりまとめ、六十七名（三十九社）を推薦しました。これに三月下旬にとりまとめるB方式を加えると、最終的には約400社延べ1000名の求人数に対して、150名程度の推薦を予定しています。業種によっては自由応募に限定した就職制度もあり、学生は自分と見つけ合いながら就活を進めています。最近では、博士の学位取得後に企業に就職する学生も順調に増えています。グローバルなビジネスモデルを、自ら創り出して国際社会で活躍できるよう、学生の新たなキャリアパスとして学位取得を奨励していますので、ご理解を頂戴できれば幸いです。

機械系同窓生の皆様方には、ご関心のある機械系研究室との連携の機会を提供すると共に、卒業生の就職に関しては引き続きご支援を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。

## 同期会報告

### 機械三十二年卒同期会

本年度の同期会は、11月7日に東京大手町に近い日立鎌倉クラブに11名集合し、畳の部屋で座椅子を使い、足を投げ出し楽な姿勢で14時近くまで歓談した。

11時30分頃より三々五々と集まり、12時には殆ど全員が揃ったが、常磐線のいわき市（勿来町）から駆けつけた友人も居り盛会であった。

注・勿来町のなこそは「来るなかれ」と読めるが、此れは北の蝦夷に対して言う言葉なのか、蝦夷が南の人達に言う言葉なのか。

神田駅から歩いて7・8分位で、神田西口繁華街も通り抜けるが、痴漢撃退用スタンガンを見たりして来た。理由は幹事の山荘に熊が出るので、その対策と考えたが、僅か数十センチ近くまで熊に近寄れるとは思えないので購入を諦めた。母校の向山の奥には、熊に注意の標識がぶら下がっている。暴漢・痴漢に電気ショックを与える護身器具で5万ポルト以上出るが、電流は微弱で殺傷能力は無いとの説明。

会社クラブを利用したので経費は安く上がり、来年も此処を利用することとして予約を入れた。

全員、80歳近傍で、老夫婦で米国内をバス旅行した元気な友人も居れば、病院通いの友人もいる状況であった。孫の自慢話とか、自分の病気等の話は殆どなく、在職中の残業時間で、月200時間を

超えた等の話も出て、日本の今日あるは我々の努力が土台との気構えに改めて感じ入った次第である。

最後に次期幹事は小田桐 祥二、羽根田 健の両君にお願いする事とし、来年の11月6日の再会を誓い解散した。

渋谷 俊徳  
(機械工学科31年卒)



平成25年11月7日 くらぶにて  
後列 小田桐、石川、村上、小野寺、渋谷、佐藤  
前列 穴戸、村越、羽根田、蜂谷、大野

### 機械三十二年卒同期会 第9回樹の実会

平成25年10月30日（水）～31日（木）に第9回樹の実会の会合が東日本大震災後の東北地区の復興状況の視察を兼ねて開催された。平成22年10月に奥湯河原で第8回目を開催してから3年が経過して、第9回目を仙台で開催する予定であったが、大震災後の仙台での開催には躊躇するものがあつた。しかし、会員か

らの震災後の復興状況を是非視察したいとの要望が多く寄せられたこともあり開催に踏み切った次第である。

卒業時は60名の会員であつたが、その後、56年が経過し、13名が死去、体調不良での不参加16名、他の用事と重なっての不参加3名、音信不通者2名で、26名の会員が元気に参加した。東北大学流体科学研究所の2号館展示室に集合し、旧機械工学科の玄関前で集合写真を撮り、ホテルのリムジンバスで松島大観荘に向かった。しばし休憩の後、瑞巖寺、円通院の観光を行った。18時30分から記念写真を撮り、宴会に入る。関弘一会員の司会で、神山新一代表幹事が開会の挨拶、最遠方からの参加者黒川熙会員の乾杯の音頭で宴会が始まった。会員の近況報告に全員に1分間スピーチをお願いした。又、阿久津武会員から在学中の講義ノート（流体力学、水力機械、空気機械、機械設計法、機械力学、構造物振動学、減衰器）を製本したものが回覧され、当時の授業の思い出話に花が咲いた。この書物は、この後、流体科学研究所の図書室に寄贈され、後輩の参考資料として活用してもらうことにした。20時30分渡部栄久会員の中締め挨拶で宴会を切り上げ、別室に用意された部屋での二次会に移り、夜遅くまで元気な会話が続いた。翌日は、登米市（みやぎの明治村）の歴史資料館5館（教育資料館、水沢県庁記念館、警察資料館、登米懐古館、春蘭亭）の見学後、南三陸町に移動し、災害状況視察した。震災後2年半が経過したが、ぐにやりと曲がった水門の扉、壊滅した住宅街を見て、会員一同、改めて被害のすさまじさに衝撃を受けた。その後、復



ホテル松島大観荘での集合写真

し、ゴルフができるようになったという。この日の東京の最高気温は、16・8度、去年より2度近く低く、早めに来て後楽園内を散策していた何人かは、寒さを感じて早々に引き揚げた。室内会場から見る後楽園の庭は、紅葉が始まったばかりである。

山崎 勉氏に、今年も記念写真を撮ってもらおう。毎年、機械系同窓会に、鮮明な写真を投稿できるのありがたい。

塩竈市から参加の福来友康氏は、今年八十歳(傘寿)になった。一同これまでの健康と今後の健やかな生活を祈願し乾杯する。出席者の中には、傘寿を迎えた人が何人かいる。

乾杯のあと、食事をしながら歓談を続け、大学時代の出席番号順に近況を話してもらおう。

パソコンをウィンドウズ8に替えた上西武仁氏から最近の使用感を聞く。機種買い替えを検討中の人は参考になる。

大学入学当時の思い出話も出る。小泉晋氏は、福島の自宅から汽車通学をしていた。当時、東北線は列車の本数が少ないので、授業の後は大学から駅まで20分走る。朝は自宅から駅まで20分走る。朝は自宅から駅まで20分走る。これを繰り返していたら、体育の時間で走らされた800メートル競走で、薬々と一位になったそうで、一同納得する。今年金婚式を迎えた人がいる。永田充氏は、夫婦でスカイツリーのレストラで食事をした。予約していると、優先的に会場までエレベーターで案内してもらえるそうである。

星宮伸光氏は、俳句を続けている。最近作「ラムネ飲む 天へ迫りだす 喉仏」は、仁尾正文氏(俳句結社「白魚火」主

興を願う地元の実業家三十店が軒を連ねた仮設商店街でキラキラ井(地元産の海産物をふんだんに使った井)での昼食を取り、地元の人達の頑張りを応援するための買い物をして帰路についた。15時40分仙台駅に到着、3年後の再会を約して、無事解散となった。

神山 新一

(機械工学科32年卒)

## 精密三十二年卒同期会 第15回目の同級会

平成25年11月11日(月)の午後、精密32年卒業生は、文京区小石川後楽園内の「涵徳亭」で、同級会を開催した。出席者は11名で昨年より2名少ない。

昨年、眼の手術で欠席した市川嘉宏氏は、神戸から灘の酒持参で出席、腰椎迂り症で欠席した小野 傳氏も回復して出席

宰)から、三度目の特選句として認められたという。

山本義次郎氏と横山靖男氏は日就寮の出身である。当時の同期生夫婦28人で、9月末に作並、仙台、大学巡りをしたことを報告してくれた。

午後三時ころ、後楽園の庭が暗くなり、風が強くなって落ち葉が舞いあがり、にわか雨が降る天候になった。あとで、この日東京に「木枯らし1号」が吹いたことを知る。

6年前までは、会場を、仙台、京都、気仙沼と一年おきに変えてきた。全員がまもなく80歳に達するという意識の今になってきている。来年も、元気に再会できることを願って会場を後にした。

八戸 信昭

(精密工学科32年卒)



前左から、永田 充、上西武仁、八戸信昭、小泉 晋、山崎 勉  
後左から、福来友康、山本義次郎、星宮伸光、小野 傳、市川嘉宏、横山靖男

## 精密三十二年卒同期会 横浜「ピアット」の集い

2013年5月14日横浜駅に近いレストラン「ピアット」で同期会が開催された。参加者は関東地区在住の飯田、高橋、加藤、但木、鈴木、佐藤、柿崎、橋本、幹事の山崎、岩月（筆者）の10名だった。

山崎幹事からメールアドレスの問題の説明と提案があった。昨年亡くなった高橋睦氏を含めて卒業後の物故者や病氣療養の同窓生について情報を寄せ合った。今回は中京地区で開催するとし、鈴木、伊藤、中村、平山の4氏に尽力いただくこととした。

それから出席者の近況報告が行われた。高齢者の集りだけに健康・体調に関

する話題が多かった。ペースメーカーを埋め込んだ人、胃を手術した人、肺塞栓で入院した人、脊柱管狭窄症を発症した人からの体験談があった。大病を克服し、健康を取り戻した貴重な話であった。

現役の加藤氏は京大と組んでIPS用顕微鏡の開発に取り組んだことを話した。飯田氏は関東学院の理事長に就任して改革改善に奮闘したが、体調を崩して今年3月に職を辞したと話した。ウォーキングやジョギング、水泳、ジム通い、ゴルフ、山登りで健康維持をはかる人、フランス語学習や大学ゼミに通う人、フルート演奏や合唱、そば打ち、家庭菜園、果樹に精出す人など様々な取組みが報告された。老後の生き方、過ごし方、生きる楽しみについて考えるよい機会となり、刺激になった。

午後3時に集いが終わり、ほろ酔い気分を外に出た。三々五々横浜駅まで歩き、再会を期して散会した。

岩月 孝二

（精密工学科36年卒）

## 機械三十九年卒同期会

昭和39年機械工学科卒業の50周年を記念しての同期会（東北39会）を平成25年11月6日～7日に仙台で行った。非常に結束が固い会で関東支部や東海支部と称してしばしば各地で支部の会も行っていたが、全体の会は6回目。仙台では4回目の開催となるが、皆が70歳過ぎであるにも拘わらず遠路37名も集まった（卒業55名、物故者3名）。最も遠いのは米国在住（高橋）で50年ぶりの仙台ではさすがに道に迷ったらしい。

当時の機械工学科は片平キャンパスに学舎（現在の多元研素材工学棟）があり、私たちの次年度から機械工学第二学科ができたし、卒業後まもなく青葉山移転が始まった頃であった。今回の集合場所として指定した懐かしい旧学舎からバスでゆつくり片平と川内両キャンパスの説明を聞きながら青葉山へ向かった。青葉山では中田教授に機械系の近況をお話し頂くと共に、福永・内山両教授の研究室の見学をさせて頂き、研究内容や設備などが往時と比べものにならないことを感じ取った。

その後、青葉城址から仙台市の変貌ぶりを眺め、秋保温泉ホテル瑞鳳に向かった。バスの中では次回の関東支部の集まり（田辺）や関西支部の立ち上げ（葛原）の話があり、ますます盛んな会の企画が報告された。到着後、各自温泉に浸かって浴衣姿になり、「青葉城恋唄」のBGMの中、宴会場に集った。代表挨拶（原山）や幹事長挨拶（今野）の後（最遠来の高橋が）乾杯し各自の近況報告スピーチに入ったが、なにしろ参加者が37名と多いため、スピーチだけで終わってしまうようなので長い時間の話は御法度とした。あらかじめ1分間スピーチとしたものの、一家一言の何時間でもしゃべりたい面々だから足りるはずもなく、わざわざ簡潔書きにして用意してきた者もいて大笑いであった。大病を患わない人は珍しいので運動に相当の気遣いをしているし、趣味はかなりの芸域に達しているような人が多い。終わりは写真の通り恒例の「青葉もゆる」を円陣を組んで歌ったが、大声で2度も（実は二次会も合わせると3度）歌ったので他の宿泊客は何



事かと思つたに違いない。

二次会は貸し切つたホテル内のバー、三次会は広い幹事部屋で夜遅くまで語り合つた。学生時代の語り口や物腰はそのままの人が多く、「おい」とか「てめえ」とか酔いが回ると学生時代に戻る。往時の面影のない人も(特に毛髪が)いるのではないかと卒業アルバムから各自の写



東北大学機械工学科39年卒同期会 平成25年11/30日 於 秋保温泉 ホテル瑞風

真をスキャンして張り付けた名札を用意した(酒井)ので、お互いに当時のハンサム振りを思い出しつつ、しばし50年の歳月を一気に巻き戻した感があつた。50年前の卒業の前後には、黒四ダム completion、ケネディ大統領の暗殺事件、東海道新幹線開通、東京オリンピック、その人工衛星による世界への中継、王選手の55号ホームランなどの出来事があり、日本が昇り竜のような発展の時代であつた。近年の困難な時代に後輩に「国の礎」の気概を期待しつつ、いまだに何らかの役割を担えると忸怩たる思いの者もいると思われる。大震災にめげずに立ち上がろうとしている仙台と楽天日本一に沸く仙台を重ね合わせながら再会を誓つて散会した。

新岡 嵩

(機械工学科39年卒)

## 機械四十年卒同期会

二年に一度、卒業後二十五年目の平成二年を第一回とし、今回第十一回同期会が去る十月二十一・二十二日開催された。仙台周辺での開催(八回)を主としており、特に大震災の後には可能な限り仙台をメイン会場とし、仙台在住の仲間と第二のふる里を共有しようと今回も松島・ホテル大観荘で行つた。

守田聰君、山村徳朗君(在仙台)と清水紘治君が幹事、一年前より綿密で濃厚な計画が発信され、参加人員は二十四名(所用で久保政徳君は二次会から参加)となつた。(我々の同期は、平成二十五年十月現在、卒業生五十四名、物故者七名、消息不明四名については幹事中心で調査しているが、今後、諸先輩、後輩の

方のお力を借用するやもしれません) 二十一日、高曇りの仙台。十六時受付、十八時開会とのことで、車以外はほとんど仙石線、松島海岸駅利用となる。電車内で前に座つた男性、どこかで会つたよいうな…と、ちらちら双方で視線を交わすが確証が無く、同時に松島海岸駅で降車。やはりそうか…と挨拶し合う風景も有つたが、我々メンバーの大多数はゴルフ会や懇親会で、年数回会つており、純粹に四十八年ぶりの再会は宇津悠二君と米国駐在など出席のタイミングを逸した大沼義治君の二人。がこの二人にしても会つた瞬間、「いやー久しぶり…」と目鼻立ち(頭髮周辺は別物)で判明するから、同期とはすばらしいものだ。

各人展望風呂や昆布湯なる漢方風呂で汗を流し、開会まで五つの部屋で出欠者のメッセージを読み、軽くアルコールを味わいながら談笑。十八時開始。記念撮影の後、今回は特別企画で、「大震災の状況と復興」について大観荘の方に解説願つた。

浦霞禅やビール、焼酎更に松島の地場野菜や牛タン、宮城豚などの旬の料理を味わいながら、近況報告。やはり大病を経験し、回復し元気にこの会に参加している面々が多いのだが、その健康維持法やポケ防止策など古希を超えた年齢にふさわしい話題が次々と飛び出す。共通した日頃の行動は、ゴルフ、釣り、ウォーキング、畑仕事、国内外旅行、コース…と様々。三度目となる四国お遍路でも最近は大福ベースダウンと平塚徹君、前回(平成二十三年十月、鳴子)は、あの平成七年の阪神淡路大震災の体験がトラウマとなつて足がむかなかつたが今回は参

加と山田包夫君、今でも「アー、卒論が出来ない…」と悪夢を見るよと笑う斉藤重信君、前後して種市精一君、根本勇夫君、笠原勲君、鈴木明彦君、筆者、杉山徳治君、鈴木直禎君、阿部章君、池田敏律君の報告。

少々雰囲気を変えようと山村君のボケ・物忘れ予防に始めたという、南京玉すだれの軽妙な仕草にやんやの喝采の地とされるオーストリアのリンツの町を見学出来たと飯野豊君、物忘れを補完するために最近ビデオカメラを愛用していると植木寛君、宇津君、太田照和君、清沢基紀君、大塩隆君、小川定義君、大沼君、山村君、清水君、守田君…と、感心しては領き、納得しては拍手、笑いの中二十時過ぎお開きとなる。

演となった。久保君も合流し、当時の下宿や寮の雰囲気そのまま学生気分で盛り上がる。コーラスが趣味でセミプロ並の笠原・山村両君の息の合ったデュエット、少々音は外れたが、若さいっぱい肩を組んで歌った阿部君と斉藤君、宴会定番の明日のゴルフの戒め、吉幾三の替え歌を熱唱する久保君と一体何曲カラオケルームに響き渡ったことか、歌い足りない御仁も若干、が二十二時過ぎお開きに。次回幹事は笠原君、根本君、種市君にお願いすることとなり、一案として、二年後は種市君の釜石で開催しようか等と日時場所は幹事一任。翌二十二日は、ゴルフ組（二十二日・松島チサンCCに六名、二十三日・利府GCで五名）、震災語り部ツアー組（石巻中心に十一名で見学）、帰宅組と、再会を約して、解散した。

渡辺 恭二  
(機械工学科40年卒)

## 精密四十二年卒同期会

S42年卒同期会は4年前の10月に愛知県奥座敷、鳳来山の近く湯谷温泉で開催。其の時、次回は平成25年5月下旬頃に仙台の奥座敷で開催予定が決まっています。

今回は、その線に沿って5月25日に1泊2日作並温泉となりました。

初日は、昼に北は、八戸の小松崎君、南は、倉敷の池谷君など各地から仙台駅に集合。

仙台在住の世話人、二石君のアレンジでマイクロバスを1台チャーター。

まずは、3・11大震災の爪跡残る荒浜

へ。TV等では岩手県が大々的に放映されましたが、仙台駅からこんなに近い荒浜も壊滅的な被害に遭っていた様子を見て、皆自然の脅威に啞然。家の基礎のみが残った敷地が連なり、そこにあった家屋・家族の団欒の跡形も無く、悲しみが込み上げてきました。

その後は、青葉山へ、我々が勉学に勤しんだ(?)精密工学科の校舎へ。

片岡君の尽力で、厨川教授と事務局の武井さんの計らいで、学生気分の1室に集合。

教授から、パンフレット等で旧機械系の現状報告(昔は、機械I・IIと精密が現在は機械知能科と航空工学科に)、その後懐かしい校舎を研究生による案内。

昔の旧式工作機械も、今はコンピュータ制御の超精密機械に。

たまたま、これに携わっている阿部君の補足説明もありました。

我々は、青葉山移動の第一期生、当時の面影は校舎に残っているのみ。

その校舎の前で記念写真。

帰りに「自動車の過去・未来館」で、富田君の説明あり。

それから、マイクロバスで今夜の宿泊所、作並温泉にある若松旅館へ直行。

まず、温泉で疲れを癒し夜の宴会へ。宴会は、世話人の伊藤君が精力的に集めた今回出席出来なかった人達の近況報告。

その後、各人の近況報告。

皆さんの、精力的にボランティア、趣味・健康等に充実した日々の生活を送っている様子でした。

しかし、寄る年波には勝てず、準備したアルコールは半分以上も残ってしまいました。





前列左から、井上・森・片岡・福田・伊藤  
後列左から、小松崎・大塚・池谷・新居・鈴木昂・一石・富田務・阿部・岡村

で青葉山の校舎で過ごしてから三十周年になるのを機に、その仙台の地で平成二十五年十一月十六日(土)・十七日(日)、機械工学科昭和五十九年卒業生の同期会が開催されました。

これまで我が同期生は熱海・仙台・箱根などで同期会を開催してきましたが、前回から間が空いたこともあり、一部から出た話に賛同者がたちまち増え、開催の運びとなりました。

但し参加を希望しながら業務や滞在地の都合で出席できなかった者も多く、当日は同期生全五十二名中十八名の参加となりました。

今も東北大に残る同期の山本悟君(大学院情報科学研究科教授)が、幹事役として連絡や当日の段取り等を取り仕切ってくれました。

当日は仙台駅での集合後、まずバスで懐かしい青葉山の大学構内へ向かいました。機械系の当時の校舎はほぼそのまま残されていました。機械系そばにコンビニやカフェができていたりことや中央食堂付近の真新しい変貌ぶりなど、久々に来訪した者達は皆一様に驚きの声を上げていました。

続いてその後、主会場である秋保温泉岩沼屋(社長は機械工学科先輩の橋晴哉氏)へと向かいました。まず温泉で体を温めた後、一次会場にて皆での楽しい宴会となりました。その場で一人ずつ近況報告を行いました。日本の産学官それぞれで皆重責を担って頑張っている様子が何われ、誇らしくかつ励まされる思いでした。また幹事山本君の計らいで、出席できなかった同期生の便りなども紹介され、皆しばし懐かしい思いに浸らせ

てもらいました。

二次会場も用意して頂き、昔のことや今の忙しいことやらで、皆しゃべり続けるとともに飲み続け、部屋に戻った後も未明まで話は尽きませんでした。なお話が深まると、皆それぞれ肉体的及び精神的につらい想いをしながら頑張っている姿が感じられ、こういう想いを共有できるのも同期会のありがたみと実感した次第です。

翌日は再び温泉で寝汗を流し、皆で会食しながら積もる話の続きをした後、バスで仙台駅に向かいそこで皆での再会を誓って解散しました。

最後に、忙しい中幹事の大役を担ってくれた山本君に参加者一同でお礼を申し上げるとともに、今回大なる癒しを与えてくれた同期生一同に改めて感謝いたします。

(機械工学科59年卒) 鏡 優

宴会後は、幹事部屋で飲み残した酒で語り尽くせなかつた話の続き。

翌日は、朝食後記念写真を撮つた後に、次回の再会を誓って一次解散。

山寺が御開帳時期だったので、希望者で参拝に。

作並駅から懐かしい仙山線に乗り山寺駅へ、参加者全員が何とか山頂へ。

帰りは麓の茶店で休憩後、山寺駅で三々五々解散。

尚、次回は一番遠方から参加した、池谷君の住む倉敷で2年後の5月に開催となりました。

福田 紀之  
(精密工学科42年卒)

## 機械五十九年卒同期会

かつて機械工学科の四年生として、皆



## 事務局便り

「事務局だより」

一世紀ぶりの大雪で、大スキー場と化した青葉山キャンパスは、構内駐車場に入れない自動車がバス道にまではみ出して大混乱。シャベルで半日かけて、誘導路と駐車場を掘り出して、皆で安堵する、思わず豪雪地帯の苦労を体験させられた一日でした。(T.N)

### ■同級会（同期会）ニュース

同窓生の皆様は近況や同期会、受賞などをご投稿して下さい。400字詰め原稿用紙約1～2枚程度、記念写真一葉と一緒に送して下さい。電子データでの原稿をお待ちしています。(送り先) 〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉6-6-01 東北大学工学部 機械知能・航空工学科内 東北大学機械系同窓会事務局  
Tel/Fax 022-795-6926  
E-mail : dousou@mech.tohoku.ac.jp  
ホームページ : <http://www.mech.tohoku.ac.jp/dousou/>

■住所変更の場合、新住所をお知らせ下さい。

■懐かしいお写真を事務局までお寄せください。会誌、ニュースレター、ホームページに掲載させていただきます。

■同期会の開催を支援します

同期会等の開催を支援致します。開催計画がお決まりになりましたら機械系同窓会事務局までご相談下さい。

同期会の開催予告等をホームページやニュースレターに掲載致しますのでご連絡下さい。(ホームページは随時、ニュースレターは発行の2ヶ月前まで受付いたします。)

## 編集後記

同窓会ニュースレター第19号をお送りします。ご感想をお寄せ頂ければ幸いです。

同窓会の皆様におかれましては、機械系の活発な活動をご周知頂き、今後ともご協力頂ければ幸いに存じます。

最後になりますが、原稿執筆をご協力下さいました皆様に厚く御礼申し上げます。(Y・S)

19号の表紙 青葉山キャンパス内 自動車の過去・未来館  
前号18号の表紙 青葉山キャンパスセンタースクエア内 中央棟

## 平成25年度 東北大学機械系同窓会通常総会予告

平成25年度通常総会は、平成26年5月24日(土)アルカディア市ヶ谷(私学会館)にて開催されます。皆様お誘い合わせのうえ、多数のご出席をいただきますようご案内申し上げます。

詳細は、同封の平成25年度通常総会・特別講演会のご案内をご覧ください。

## 学生支援に関するご報告

東北大学機械系同窓会では、毎年、機械系の学生に対して様々な支援を実施しております。5月には毎年恒例の工明会運動会に機械系4専攻と流体研の各代表者に2万円ずつの支援(計10万円)、また機械系の女子学生に対する支援(10万円)、3月の卒業証書授与式後に開催される謝恩・祝賀会に支援(10万円)を行っております。

また昨年の12月には、機械系学生と先輩との交流会として、オープンフェスティバルを主催しました。

この場をお借りしまして、同窓会の活動にご支援頂いた会員の皆様に厚く御礼申し上げます。

### ■同窓会事務局

月～金 10:00～16:00(4月1日より)  
Tel/FAX 022-795-6926  
E-mail dousou@mech.tohoku.ac.jp